

淡路から全国へ向けてオープンガーデンネットワーク

特定非営利活動法人 アルファグリーンネット
(兵庫県北淡町)



兵庫県立淡路景観園芸学校外観



兵庫県立淡路景観園芸学校
キャンパス

I. 活動の目的

個人の庭は、ガーデニングブームを支える大きなフィールドであると同時に「まちなみ」を形成する重要な要素です。最近一部の市民は、この「庭」を個人の趣味を実現する場としてではなくて、「まちなみ」機能を理解し、良好なまちなみづくりに貢献することや、この活動を通じて地域のコミュニティの形成にも役立てようとして「オープンガーデン」を取組み始めています。

このような動きは兵庫県内においても特に活発であり、既に5地区以上においてオープンガーデンネットワークが組織され、今や兵庫県は「オープンガーデン先進県」とも言える状況にあります。

全国においてもオープンガーデンに取組む多数の団体やグループがありますが、これらの団体が一堂に会して交流を深めることにより、さらなる発展と「花と緑のまちづくり活動」へ踏み出すきっかけづくりになるものと考えられます。また、その成果を全国に発信することにより、花と緑を生かした美しいまちなみの形成とあたたかなコミュニティづくりの推進に寄与できると思われます。

II. 活動の計画・立案

2-1. アルファグリーンネット（以下AGNと称する）の活動内容

AGNは、県立淡路景観園芸学校の生涯学習コースの修了生が、横の連携を深めるために、平成12年3月に結成した組織であります。そして、平成13年10月にNPOの認証取得を行いました。

活動の目的としては、住民主体の「花と緑のまちづくり活動」を活性化していくことにより、人と自然が共生し、あたたかなコミュニティが息づくまちづくり・地域づくりの推進に貢献することを目的としております。

オープンガーデンについてはAGNの会員が主体となって、行政と連携を取った活動を行っているほか、会員独自で行っている地区もあります。

2-2. 推進体制と実施計画

(1) 推進体制

「花と緑のまちづくりフォーラム」として、2000年より年に

1回開催してきましたが、何れも淡路景観園芸学校との共催で行ってまいりました。今回も助成金はAGN名義でいただくことになりますが、これだけの予算では不十分なのと従来の慣例から例年どおり共同で開催することにいたしました。

(2) 実施計画について

①過去のフォーラム開催例に合わせ、実施計画を策定していくことになりましたが、活動発表会と現地見学会を2日間にわたり開催することにいたしました。具体的には、開催日時・基調講演者の選定に時間がかかり、関係する団体の行事計画・スケジュール等も調整して日時を決定しました。また、基調講演をしていただく方には、スケジュール等の関係で、最終決定までにかなりの時間を要しました。



県外発表者3名、県内発表者4名が
初めて一堂に会した

②発表者の選定について、県外発表者については「マイガーデン」誌に掲載されている地区の中から選定することになり、直接電話をお願いした方、役場を通じてお願いした方も含め3名にお願いすることになりました。県内発表者については、オープンガーデンを行っている地域から全てAGNの会員が発表することになりました。

③PR方法については、大々的にPRするためパンフレットとポスターの両方を作成することにいたしました。これにより大きな反響を巻き起こし、440名という多数の参加者を得ることができました。

④「走る県民教室」の利用について

兵庫県には、県民が県の施設などを見学することにより、県政についての理解を深めるため、県がバスの借上げ費用の一部を負担する制度があります。これを利用することにより、参加者の利便性や経済効果もあることから積極的に利用することにいたしました。10月5日(土)、10月6日(日)に各1台を確保することができました。

⑤現地見学会の候補地については、時期的にオープンガーデンの適期を外れておりますので、選定に時間を要するものと思っておりましたが、三田市の「三田花と緑のネットワーク」のご好意により受け入れをしていただくことになりました。

2-3. 役割分担

先述しましたように、AGNと淡路景観園芸学校の関係者による役割分担を行い、責任と権限を明確にしました。この結果たいした混乱もなく、大変スムーズな進行ができました。

III. 活動の内容

3-1. 発表者の事前打合せ

基調講演の先生、活動発表者の7名については、発表当日の午前中に初めての顔合わせを行いました。特に県外の方については、遠路のご苦労や地理不案内のハンディをどのようにカバーするか熟慮を重ねた対応の甲斐があり、無事にお会いしたときは大変感激しました。

全員が集合した段階で打合せを行いましたが、この段階で今回の行事の成功を確信いたしました。

3-2. 活動報告プログラム

- (1) 主催者、来賓挨拶
- (2) 基調講演「路地裏園芸からオープンガーデンへ」
園芸研究家 富山昌克氏
- (3) オープンガーデナー活動報告
①北海道恵庭市 ブレインズ代表 内倉真裕美氏
小布施オープンガーデン代表 跡部由美子氏
③宮崎県宮崎市
サンフラワー宮崎オープンガーデン代表
佐々木喜美枝氏

④兵庫県淡路地区

- あわじオープンガーデン実行委員会 事務局
嶋一史氏

⑤兵庫県三田市

- 三田花と緑のネットワーク代表 高嶋清子氏

⑥兵庫県宝塚市

- アルファグリーンネット宝塚支部長 熊澤良彦氏

⑦兵庫県東播磨地区

- ひょうごオープンガーデン開催機構 牧美紀氏

(4) 全体討論

発表者と参加者の質疑応答の時間を設け、コミュニケーションの円滑化を計ったところ、参加者より発表の感想、日頃感じられている内容等の質問が活発に出されました。これに対し、発表者より経験に基づいた回答があり、納得や感心されておりました。

(5) オープンガーデナー宣言

3-3. 現地見学会－参加者130名

- (1) 集合 国営明石海峡公園淡路地区東浦口ゲート前
- (2) 見学 園内及び淡路夢舞台温室
- (3) 昼食 淡路ハイウェイオアシス
(午後からの行程のみの参加の方)
- (4) 集合 神戸市営地下鉄総合運動公園駅前
- (5) 見学 兵庫県三田市オープンガーデン実施地区



主催者挨拶



参加者であふれかえった会場

(6) 解散 神戸市内

3-4. オープンガーデナーの集いの総括

2日間にわたり開催しましたが、第1日目が440名、第2日目が130名の参加があり、大成功であったと言っても過大評価ではないと思います。

特に第1日目は学校の多目的ホール始まって依頼の収容人数で、床が落ちるのではと心配するほどでした。また、オープンガーデナーによる活動報告では、取組んだ苦労や楽しみがつぶさに理解できたことと思われます。

2日目は実際に家庭の庭を見せていただき、庭主の創意工夫や飾らない応対を見ていると、オープンガーデンの特徴であるコミュニケーションの重要性が良く理解されたと思われます。



全体討論の様子

IV. 今後の課題

「淡路から全国へ向けてオープーガーデンネットワーク」の開催は、成功裡に終了することができましたが、個人の庭を「まちなみ」機能へ、「コミュニティ」の形成に導くためには、さらなる継続が必要と考えます。

オープンガーデンも近年脚光を浴びてきたころであり、まだ規模としても小規模な状況であります。これを近隣からストリートさらには地域に、いわゆる点から線さらには面へ定着させることが必要かと思います。

しかしながら既存の町並みにあっては、閉鎖的なまちなみが定着していて、改善の余地は少ないかもしれません、規模を拡大することによってコミュニティの形成には繋がるものと考えられます。

今後新しい町が開発されるときや既存の一部の町では、まちなみを考慮した住宅や庭が配置されているところがありますので、まちなみやコミュニティの形成に、役割を担ってくれるものと考えます。

アルファグリーンネットの「花と緑のまちづくり活動」は、ただ単に花や緑を植え付けるだけではなく、住民同士のコミュニケーションやあたたかなコミュニティが形成されるような活動を行うことを絶えず考慮し、計画し、活動しておりますので、我々が先陣を切る形で進めていきたいと思います。



オープンガーデン見学の様子

＜団体活動データ＞

■特定非営利活動法人 アルファグリーンネット

活動テーマ	淡路から全国へ向けてオープンガーデンネットワーク
活動目的	住民主体の「花と緑のまちづくり活動」を立ち上げ、活性化していくことにより、人と自然が共生したたかなコミュニティが息づくまちづくり・地域づくりの推進に貢献すること。
設立年月	2000 年 3 月
代表者名	浅原正三
活動地域	兵庫県津名郡北淡町野島常盤地区ほか 兵庫県全域
メンバー	約 400 名 退職者、会社員、主婦等

●団体設立の経緯

兵庫県立淡路景観園芸学校では、県民を対象に園芸を通して積極的に地域づくりに参加する心を育むための生涯学習講座（まちづくりガーデナーコース）を開講している。その受講生がそれぞれ自ら暮らす地域において、同校で学んだ緑化活動等を実践していく上で相互の連携が必要であることから組織が設立された。

生涯学習機能

花と緑に関する地域社会のニーズにこたえる多彩なプログラムを広く県民を対象に開設し、花と緑の講義や実技体験などを通じて、積極的に地域づくりに参加するごころをはぐくみます。



淡路景観園芸学校のキャンパス

L本科コース

社会貢献の想い、技術修得のニーズにこたえる

「本科コース」は前期の「花と緑のまちづくりプログラム」と後期の「花と緑の地域づくりプログラム」の2つのプログラムで構成されています。

地域で花と緑に関する活動を行っている方を中心、基本的な園芸・造園の知識や技術、まちづくりの実践的な取り組み、そしてリーダーシップや情報発信のノウハウまで、講習と実習を織りまぜた本格的なプログラムを提供し、花と緑にあふれたまちづくりや人々の暮らしを創造する地域活性化の指標となる。

前期・後期とも、3日間を月1回、5か月にわたるコースで、前期・後期の両コースを修了すると、「花と緑のまちづくり指導者として、「まちづくりガーデナー」の称号を得ることができます。

II. 体験コース

「実験にやってみよう！」がキーワード

広く一般県民を対象とし、花と緑の楽しみ、公園や庭園の大切さ、楽しさをより良く知ってもらい、地域づくりの新たな時代を築きながら、人々により積極的な活動をしてもらおうという願いで作られた3日間のコースです。

できる限り多くの人が参加し、自分でデザインした花壇を実際に作ってみるといった実技体験を通じてだれもが楽しめる内容です。夏休み等には、小学生を対象とした講座も実施します。

III テーマ曲一覧

花と緑のまちづくりをすでに実行している方を対象に、課題の解決のためテープを絞って学ぶためのコースです。

- テーマ例 総木・盆栽の手入れ
- ビオトープづくりと自然観察
- 里山保全活動
- 庭のデザイン
- ワークショップ企画運営



淡路景観園芸学校「まちづくりガーデナーコース」の室内

●活動地域図

淡路景観園芸学校がある津名郡北淡町を中心に兵庫県内全域に及ぶ



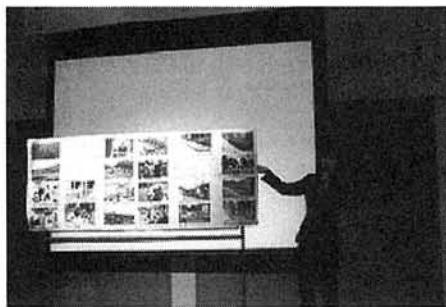
生涯学習受講生を中心として
県内の 54 市区町に支部を持ち、「勝手連」的な緑化活動、
地域の人と自宅の庭を開放するオープンガーデンネットワー
ーク活動、里山保全、環境教育など様々な取り組みを行って
きた。まちは建造物などハードとともに、そこに住む人とコ
ミュニティで構成され、コミュニティはデザインしていくこと
でよりよく成長する。それらをつなぐのが「花と緑」である。
景観園芸学校の使命は、「コミュニティ・デザイン」の担い手
の養成と捉えられている。

●これまでの活動

- ① 花と緑を活かした美しいまちをつくるための公共的空間の緑化等
- ② 行政や他の団体が進める花と緑のまちづくり活動への協力・支援
- ③ 花と緑のまちづくり推進のための啓発
- ④ 花と緑のまちづくり活動推進のための調査・研究
- ⑤ 花と緑のまちづくり活動に関する会報等の発行



活動地域での緑化活動



活動発表会の様子



ピオトープにて環境教育プログラム実演

●助成対象活動

全国各地域のオープンガーデン実践者が一堂に会する「全国オープンガーデナーの集い」の開催並びに来場者へのアンケート調査及びその分析。

この催しは、オープンガーデナー同士の交流の深化、活動の全国的運動への展開並びに各地の住民が庭からまちづくりへ踏み出すきっかけづくりを目指して開催された。

2002年 4月～9月 オープンガーデン実施計画づくり

開催日時・場所の決定、講演者、発表者の人選、参加者募集等

10月 全国オープンガーデナーの集い開催

オープンガーデン実施地区（三田市）見学会実施

来訪者に対するアンケートの実施

12月 アンケート結果の集約



全国オープンガーデナーの集いの様子



会期：平成14年10月5日(土)・6日(日)
会場：10月5日 兵庫県立出芸寮藝術高等学校 多目的ホール
10月6日 (神戸市中央区)
会場：兵庫県立美術公園緑地地区、武庫夢舞台
兵庫県三田市オープンガーデン実施地区

主催：NPO法人アートフォーライブネット／兵庫県立美術公園緑地地区
共催：(財)神戸市公園緑化協会
主催：(財)神戸市公園緑化協会／(財)大阪市公園緑化協会
主催：(財)兵庫県立美術館／(財)兵庫花卉記念事業協会

全国オープンガーデナーの集いのパンフレット

オープンガーデン

1920年代、イギリスで個人の庭園を有料で公開し入園料をチャリティーにあてたのが始まりとされる。オープンガーデンに登録された庭園は、表紙の色にちなんで「イエローブック」と呼ばれるガイドブックで紹介され、毎年2月に発行されるこの本は必ずベストセラーの上位に入る。日本でも1990年代後半からオープンガーデン活動が広がっている。



オープンガーデン見学

アンケート結果

「集い」来訪者を対象にアンケート調査を実施した。回収数は 143 で、そのうち有効回答数は 132 であった。主なアンケート結果は、以下の通りである。

- ・ **イベント来訪者の属性**

女性が多く（約 6 割）、職業は専業主婦、無職が多数を占めていた。年齢的には、50 歳代と 60 歳代で全体の 7 割を占めた。

- ・ **回答者の所在地**

イベント開催地の「兵庫県」が最も多く（約 6 割）、次いで「大阪府」（25%）であった。兵庫県内では「神戸市」、「宝塚市」などオープンガーデンを開催している地域からの参加が目立った。

- ・ **オープンガーデンの実践の有無**

「いいえ」が 62% で、今までオープンガーデンをしたことのない人の参加が多かったが、36% の人が、「はい」（したことがある）と回答している。

- ・ **オープンガーデンを行った庭主の意識**

回答者の多くが、「庭づくりに対する満足」、「生活の充実」、「庭づくり技術の向上」、「近所の人と話す機会の増加」、「他地域との交流や参加」、「外向きに庭づくりを考える」、「まちなみの美化を意識」等について肯定的に評価している。一方、「知らない人が来ることによる防犯上の問題」、「庭づくりに対する批評や批判がいや」、「近隣からの苦情」といった、マイナス面については、「そう思う」とする人は殆どいなかった。

- ・ **今後のオープンガーデンに必要なこと**

オープンガーデンをこれからも広く行っていくために必要なこととしては、多い方から、「お知らせなどの広報・周知」（42%）、「一緒に協力してくれるグループ」（40%）、「自分の技術の向上」（32%）の順となった。

●これからの活動

ひょうごボランタリープラザの行政・NPO 協働事業助成事業にて「兵庫県下オープンガーデン化推進プロジェクト」を展開する予定。

1. 「オープンガーデン参加促進システムづくり」

一般市民に対し、オープンガーデンへの参加を誘導するマニュアル作成

2. 「オープンガーデン開催促進システムづくり」

オープンガーデンと公共施設のみどりがネットワークした地域づくりを進めるための協議会の組織化

3. 「オープンガーデン運営支援システムづくり」

園芸産業等の民間企業のネットワーク構築

4. 「オープンガーデンツーリズム資源化システムづくり」

観光資源化し、新しいタイプのツーリズムの完成を目指す